

<ニコニコ委員会>

阿久澤委員長

鈴木文夫ガバナー補佐→「年度初めの会長・幹事会で合同例会のお願いをしましたところ、今日実現頂きありがとうございます」。北島会長・親松幹事→「10年ぶりの合同例会楽しみましょう」。以下、感謝をこめてニコニコへ。赤本会員、安藤美恵子会員、安藤志子会員、福家会員、古澤会員、畠山会員、平岡会員、井上久会員、井上勇会員、磯会員、鴨志田会員、金子会員、小林会員、小塚会員、中島健児会員、中島眞一会員、中村会員、野島会員、大西会員、大矢会員、尾崎会員、関山会員、白井会員、菅会員、鈴木清会員、玉井会員、渡邊会員、結城会員、阿久澤会員。



<出席委員会>

結城委員長

	会員	出席	欠席	マーク	出席率
第1861回	44	35	9		79.55%
第1860回	44	30	14	7	84.09%

<ニコニコ・財団・米山委員会>

	今回		累計	
ニコニコ	32件	32,000円	1,157件	1,258,380円
財団	0件	0円	22件	292,000円
ベネファクター	0件	0円	1件	106,000円
米山	0件	0円	37件	480,000円



本日のプログラム

<招聘卓話>

先に西北RC渡辺会長より、本日の卓話者の白石晴生様のご紹介がありました。

～現職～

株式会社 ランドサーベイ 代表取締役
一般社団法人 川崎青年会議所
2017年度第67代理事長

～職歴～

平成22年から2期にわたり日本南極地域観測隊として南極昭和基地での測量任務を遂行。平成24年7月、34歳にして株式会社 ランドサーベイ3代目代表取締役役に就任。平成26年に川崎市、平成28年には神奈川県より優良表彰。

～JC歴～

代表取締役就任から半年後に、一般社団法人川崎青年会議所入会。3年目には川崎青年会議所歴史上最短で専務理事就任。28年副理事長、29年理事長就任。



◇ 川崎青年会議所の活動について 白石晴生様

全国697ある全国青年会議所の上に国際青年会議所があり、アメリカで発足した第1号は1915年10月に作られ本年で102年目となります。各種団体がある中で青年会議所のバッジには唯一国連のマークが付いております。日本での青年会議所は戦後1949年に「新しい日本の再建は我々若者の責務である」という覚悟の元発足し、1951年に国際の青年会議所に認められました。青年会議所は全国に697あり会員は35,000人います。「奉仕」「修練」「友情」の3つの信条の元に活動しています。川崎青年会議所は1951年日本で22番目、神奈川県では横浜に次ぐ2番目に設立されました。

理事長所信

我がまち川崎は日本有数の産業都市として発展を遂げ、長年にわたり日本の中核として産業をリードしてきました。反面公害のまちとも呼ばれてきましたが、今では芸術、文化、スポーツのまちへとイメージを変貌させ、前項の政令指定都市の中で最も小さい面積でありながら、人口が伸び続けている素晴らしい都市であります。京浜工業地帯は国家戦略特区に指定され、北部多摩丘陵部は自然が多く残っており新興住宅地も多く、多様な面を見せています。若者が地域への愛着を失い自分たちが住み暮らすまちに明るい夢や希望が持つことが出来なくならないよう、様々な世代の一層の社会参画を促し、青少年の育成を充実させ、社会で自立していくための、将来の川崎を背負っていく人材の育成に努めます。

①まちづくり

伝統文化継承事業や青少年対象事業など、現代に適応したものへ変化させ、より高い精度の運営を行い市民へ発信していきます。まちづくり事業はニーズを模索し地域に誇りに思える市民参画型事業を展開していきます。

②組織運営と発信

総務や公報は組織を規則正しく運営、発信していく上で大変重要です。精査、透明化は勿論のこと、意義の共有、積極的な参画を促します。またメディアへの露出機会を増やし、各事業支援を行うことで、市民の地域への関心を高め明るい社会の実現を目指します。

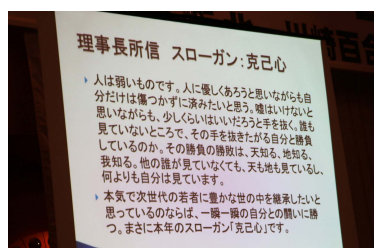
③出席率と渉外活動

継続的な課題である例会出席率の向上を目指し、青年会議所の意義の伝達と組織の強靱化。また海外での国際大会や国内で開催される事業へ参加し、新たな発見や可能性を広げメンバーの成長を川崎の未来へとつなげます。

④会員拡大

青年会議所の原点はまちづくりであります。まちづくりを考える市民を育成することが我々の運動の意義であり、その運動を通じて人づくりをすることが使命であります。同じ志を持つメンバーを一人でも多く入会させ、地域への愛着と発展への情熱を持つ若者を増やすことが明るい豊かな社会への実現への近道です。

『とにかくやってみなはれ。やる前から諦める奴は、一番つまらん人間だ』。第1次日本南極観測隊の越冬隊長、西堀栄三郎の有名な言葉であり、我々青年会議所運動もまさにこの言葉通り、まずはやる前から諦めるより挑戦して決断できた者だけに「奉仕」「修練」「友情」の3つの信条の元成長のチャンスが与えられます。脈々と受け継がれる歴史と伝統を重んじ、『克己心』をもって職を全うすることを所信といたします。



南極観測隊での2年間の活動について

南極にある日本の昭和基地に東京ドームの3倍の

土地にアンテナを立てるという仕事に携わっていました。砕氷艦『しらせ』でオーストラリアのフリーマントルを出港南下してから西に進む南ルートでおよそ1カ月かけ航行します。身体、健康状態の検査に合格し、寒冷地での訓練を受けてから隊に着任となり、1度出発すると7～13カ月の活動になります。現地では着任後ギネス記録となるアンテナ設立1045本を記録し新聞にも掲載されました。私は2度南極で活動しましたが越冬隊としての活動はまだなので、またいずれ行き活動したいと考えております。



白石様の南極での活動は、写真や動画など見ながら説明され、航行中の砕氷の様子、南極での珍しく美しい景色や壮大な氷河、先ごろテレビで放映された『南極料理人』の話を交えた南極での食事や生活の様子、また極寒地ならではの死と隣り合わせにある隊員のエピソードなどが語られ、貴重な卓話として聞き入りました。

<閉会点鐘>

西北RC渡辺会長

～記念例会終了後、懇親会開始～

<懇親会>

■乾杯・挨拶

北島会長

ガバナー補佐より肝いりの3クラブ合同例会をやることとなりました。同じ多摩地区のクラブでもあり親子孫と来年以降も継続できるよう、次年度の会長・幹事さんよろしくお願い致します。3クラブの発展と健勝を祈って乾杯。



■次年度紹介・挨拶

ガバナー補佐 各クラブ会長・幹事



■ソング

『手に手つないで』

麻生RC大野ソングリーダー



■閉めの挨拶

麻生RC志村会長



3クラブ合同記念例会とあって盛大な懇親会となりました。懇親会では美味しいお食事とお酒と共に、クラブの垣根を超えた楽しい一時となりました。

